

第92回春のすぎなみ区民歩こう会・ワンポイントガイド

皇居・神田・本郷界隈を歩きます。

昨年、乾門の通り抜けで多くの人に感動を与えてくれた皇居界隈の木立の中を散策します。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを迎え、更に変貌しようとしている大都会の中で、人々の心のよりどころとして静かに佇んでいる神社などを訪ねます。

迎賓館（赤坂離宮・本館）

- ・海外からの賓客をお迎えし接遇することを目的に、昭和49年（1974）に国の迎賓施設として誕生。
- ・日本で唯一のネオ・バロック様式の西洋建築物である迎賓館は、明治42年建設された。
- ・昭和21年国宝に指定され、現在は内閣府が管理している。

靖国神社

- ・明治2年（1869）明治天皇のご意向により創建された「東京招魂社」が始まりで、明治12年（1879）「靖国神社」と改称され、今日に至ります。国のため、尊い命を捧げられた人々の御霊を慰める為創建された。「靖国」とは、明治天皇の命名によるもので、「祖国を平安にする」「平和な国家を建設する」という願いが込められている。246万6千柱が合祀されている。
- ・気象庁は境内にある3本のソメイヨシノを東京都での桜の開花日を決定する「標本木」として指定。気象庁はこの標準木の桜が咲いた日を、東京の「桜の開花日」と発表する。



千鳥ヶ淵公園（千鳥ヶ淵緑地・千鳥ヶ淵戦没者墓苑）

- ・千鳥ヶ淵緑地：千鳥ヶ淵沿いに伸びる遊歩道が、「千鳥ヶ淵緑道」。
- ・400本以上の桜が植られており、都内有数の桜の名所。とりわけこの遊歩道から眺める桜並木は人気が高い。
- ・「千鳥が羽根を広げた形」に由来するとされるお濠。緩やかにカーブした水面に映る桜並木の風景が一番の見所だ。夜桜の美しさも人気のひとつ。
- ・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑：千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、昭和34年（1959年）国によって建設され、戦没者のご遺骨を埋葬してある墓苑。海外の戦場において、多くの方々が戦没された。戦後、ご遺骨が日本に持ち帰られたが、ご遺族にお渡し出来なかったものを、納骨室に納めてある。「無名戦士の墓」として戦没者の慰霊追悼のための墓苑である。現在、36万80柱（平成26年10月末現在）のご遺骨がこの墓苑に奉安されている。

北の丸公園（東京の気象観測露場・科学技術館・近代美術館-工芸館・日本武道館）

- ・昭和30年代後半に森林公園として造成され、昭和44年一般に開放された。
- ・園内には江戸城史跡・歴史的遺構のほか、科学技術館、近代美術館、最近では東京の気象観測地点（注）が移動してくるなど、過去から未来までを楽しめるエリアである。北の丸公園でも近代美術館・工芸館のクラシカルな建物はひときわ美しい。元は明治43年に建てられた旧近衛師団司令部。

注：地上観測地点東京は気象用語で「露場」と云い、平成26年12月より大手町から北の丸公園に移転。東京の雨量、風力、気温、湿度、積雪などが測定され始めている。



皇居東御苑（天守台）

- ・皇居東御苑は旧江戸城の本丸・二の丸・三の丸の一部を宮殿の造営に合わせて、皇居付属庭園として整備された。広さは21万㎡（63万坪）で皇宮警察や管理事務所がある。昭和43年（1968）から公開されている。立派な石垣も残されており、天守台に天守閣を再建する運動が持ち上がっている

和田倉噴水公園

- ・昭和 36 年（1961）に天皇陛下ご成婚を記念して作られた。その後、平成 7 年（1995）に皇太子殿下のご成婚を記念して、大噴水を再整備。新しく造られた落水施設やモニュメントを流水施設で結んでいる。大噴水の他にも水のモニュメントや天皇陛下御製の歌碑、レストラン等がある。



ニコライ堂

- ・ニコライ堂の名で知られる東京復活大聖堂教会は、ギリシャ正教とも呼ばれる正教会の教会。
- ・日本に正教会の教えをもたらしたロシア人修道司祭（のち大主教）聖ニコライにちなむ。イエス・キリストの復活を象徴する大聖堂である。
- ・コンドルの設計によって明治 24 年（1891）に竣工された日本で初めて最大級の本格的なビザンチン様式の教会建築。緑青を纏った高さ 35m のドーム屋根が特徴。昭和 37 年（1962）国の重要文化財に指定。

神田明神

- ・江戸時代には「神田明神」と名乗っていたが、明治 5 年（1872）に正式に「神田神社」と名称が改められた、商売の神様、神田祭を行う神社として知られる。
- ・野村胡堂の代表作「銭形平次捕物控」の主人公・銭形平次が当神田明神下の長屋に住居を構えていたという設定から、敷地内の本殿右手横に「銭形平次の碑」がある。銭形平次は架空の人物である。

湯島天満宮（湯島天神）

- ・創建は古く 458 年と伝えられている。大田道灌が再興、徳川家康も江戸入りの時寄進している。
- ・菅原道真を祀るこの神社は、学問の神様として、別名「湯島天神」としても広く知られている。
- ・梅まつりや受験シーズンになると、合格祈願や御礼などに訪れる人で境内は溢れ、絵馬を奉納する場所もない状況である。

東大構内（赤門と三四郎池）

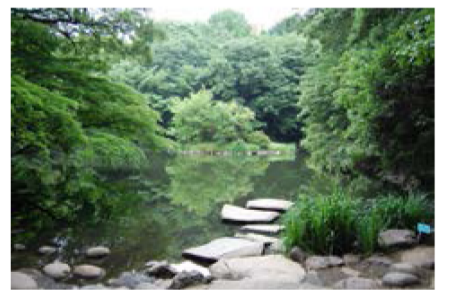
赤 門：赤門が作られたのは、東大が出来る 50 年以上前の文政 11 年（1827）。東大の敷地はかつて加賀藩 前田家の上屋敷であった。将軍家から夫人を迎える際には、門を朱色に塗ることが習慣となっており、前田斉泰（なりやす）が 11 代将軍家斉（いえなり）の溶姫（ようひめ）を迎える際に造られた。



三四郎池（育徳園心字池）：三四郎池は、「三四郎池」と名付けられる以前から池として人々の目を楽しませてきた。

当時の当主前田利常によって園池が築造されたのは、天保 9 年（1638）。当時江戸諸侯邸の庭園中第一と称せられた。

池の形が「心」という字をかたどっており、この池の正式名称は「育徳園心字池」であるが、夏目漱石の小説「三四郎」以来、三四郎池の名で親しまれている。



不忍池（しのばずのいけ）

- ・東大医学部の鉄門を出て、無縁坂を下ると不忍池が広がる。池の中程の島に不忍池弁財天（寛永寺：谷中七福神）がある。
- ・夏には池の一部を覆い尽くすほどの蓮に覆われ、一面の緑の葉と桃色の蓮の花が美しい。冬には鴨をはじめとした数多くの水鳥が飛来して、とても賑やかになる。
- ・池の周には、下町風俗資料館や水上音楽堂が点在している。



（参考資料：千代田区文化財マップ・千代田区発行地図・千代田区史跡と観光・URL—Wikipedia ほか）